タバタはISO認証取得企業です。

TUSA

DIVING MASK, SNORKEL

Tabata
TOKYO LOS ANGELES SYDNEY AMSTERDAM

ダイビングマスク, スノーケル 取扱説明書

OWNER'S INSUTRUCTION MANUAL

第13版

当製品を御使用になる前に、必ずこの使用説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。

株式会社タバタ
◎お問い合わせ先
お客様相談室　TEL.0120-989-023
〒340-0813　埼玉県八潮市木曽根768
マスク＆スノーケル取説　第13版

はじめに

この度は、TUSAダイビングマスク、スノーケルをお買上いただきまして、まことに有難うございます。

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には、お買い上げの販売店までお問い合わせください。万一、間違った使い方をした場合には、重大な事故につながる可能性がありますので、十分留意してください。

取扱説明書は製品の一部です。必ずいつでも取り出して読める場所に保管し、忘れたり、分からないことが生じた場合には、何度でも読み返すように心がけてください。もし、他の人に当製品を貸し出すような場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。

なお、スクーバダイビングではなく、スキンダイビングやスノーケリングに当社製品をご使用される場合でも、該当する項目は必ずよくお読みください。

マスク＆スノーケル取説

1995/6　第1版
1997/1　第2版
1999/1　第3版
2000/2　第4版
2002/7　第5版
2003/2　第6版
2003/12 第7版
2005/2　第8版
2005/8　第9版
2007/2　第10版
2008/1　第11版
2009/7　第12版
2010/10 第13版

目次

安全のために

スクーバダイビングは、水中という非日常的な美しき世界に我々を導いてくれる、素晴しいレジャーです。
また、スクーバダイビングに対する正しい知識と、器材の正しい取扱方法を理解していれば、老若男女を問わず誰でも楽しむことができる親しみやすいレジャーでもあります。

しかし、それらの知識と取扱方法を正しく習得してない場合には最悪の場合、重大な事故につながる危険性があることもまた事実です。そして一方で、その可能性は決して高いものでないことも、ダイバーの皆様は十分ご存じのはずです。

日本スクーバ協会※では、全てのダイバーの皆様にダイビングにおける危険性とは何かをよく認識していただくためにも、取扱説明書に共通の「危険」「警告」事項を掲載するとともに、「危険」「警告」「注意」表示のそれぞれの意味を以下のように定義しています。

※日本スクーバ協会とは、安全性の向上を第一に、ソフト及びハードの両面からダイビング業界の健全な進歩と発展を考えていくことを目的として日本国内の主要器材メーカー、商社、ウエット（ドライ）スーツメーカー、専門雑誌社等が集まって構成されている団体です。

危険

「危険」：それを守らないと、最悪の場合重症事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

警告

「警告」：それを守らないと、間接的に重症事故や死亡事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

注意

「注意」：それを守らないと、軽症程度の事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故がおこる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

危険

危険事項

●当製品を使用してスクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けてください。安全性の見地から、各団体の発行するCカード（講習終了認定証）を取得していない方の当製品の使用を禁止いたします［但し、各団体のインストラクター監視下における講習中の使用は、この限りではありません。］
（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

●Cカードを取得している方でも、もし、減圧症やエアーエンボリズム等の発生のメカニズムと、それを防ぐ方法を十分に理解できてない場合は、講習を受けた指導団体のテキストブックを必ず理解できるまで読み返してください。基本的な知識のないままダイビングを行うと、重大な事故につながる可能性があります。

●スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにしてください。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

警告事項

●スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行ってください。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には、絶対に無理を避け、ダイビングを中止してください。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●スクーバダイビングを行う前には、アルコール類の摂取はもちろんのこと、薬品類（特に点鼻薬やかぜ薬等）の服用を避け、体調の悪い人や持病がある方は必ず事前に医師の診断を受けてください。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には、販売店にて必ず説明を受けてください。

●使用する前には必ず各部を点検してください。ストラップの緩み、各部の作動状況、破損等の異常がある場合や、少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店にて点検、修理を行ってください。

●ダイビングマスク、スノーケルは、ご自分では絶対に分解しないでください。また、規格外のパーツを取り付けたり、勝手に改造を加えることもおやめください。万一、ご自分で分解したり、改造した場合には、水没、破損の原因となり、重大な事故を招く可能性があります。

●マスクのレンズをコレクティブレンズに交換する際は、必ずお買い上げの販売店に依頼して行ってください。個人で交換をすると、レンズフレームのはめ込み不良等によってレンズが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、必ず純正コレクティブレンズをご使用ください。

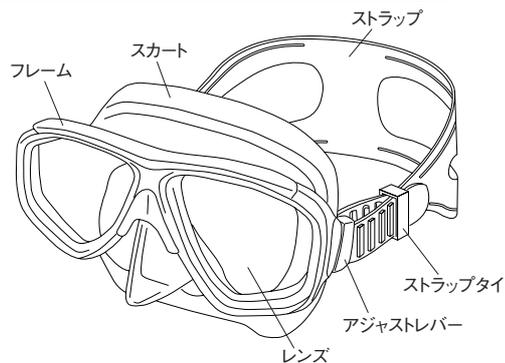
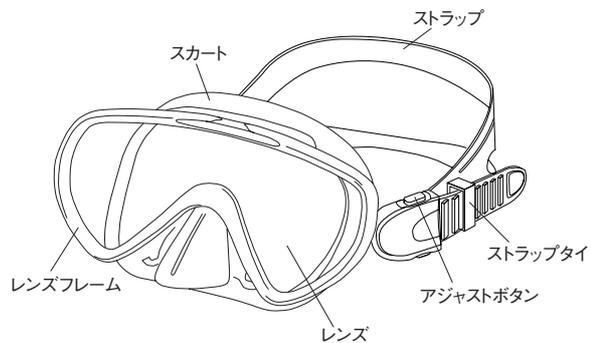
●マスクのレンズには、割れた時に破砕面が鋭角にならない強化（テンパード）ガラスを採用して安全を高めていますが、岩場等でマスクを傷ついたまま無闇に水中に飛び込んだりすることは大変に危険です。岩に衝突する等してレンズが割れると重大な事故につながる可能性がありますので、飛び込み（ボートダイビングを除く）はもちろん、スクーバダイビングとスキンダイビング、スノーケリング以外の目的には絶対に使用しないでください。

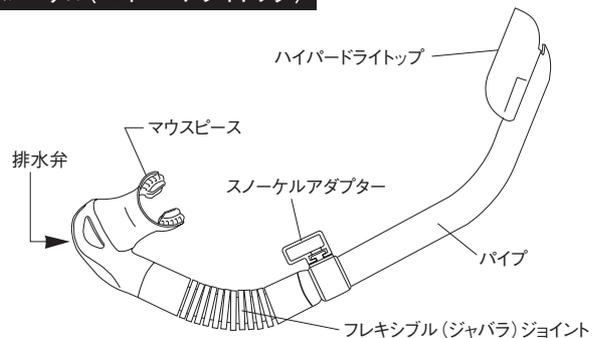
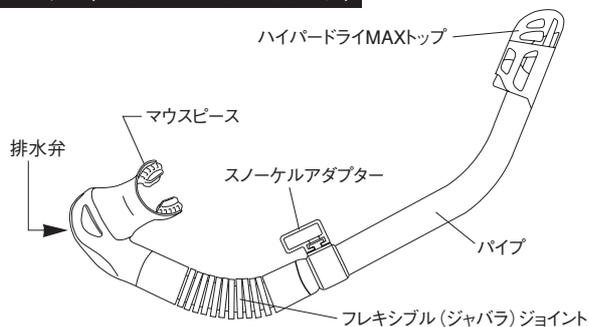
注意事項

●ダイビング機材は、メーカー、品番によって操作方法が異なりますので、なるべく他人に貸さないようにしてください。もし、貸し出す場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。

※スクーバダイビングではなく、スキンダイビングやスノーケリングに当製品をご使用される場合でも、警告事項と注意事項は必ずよくお読みください。

各部の名称

マスク（5段階可変式、回転式アジャスタータイプ）

マスク（スカート引きストラップタイプ）

※イラストはフレームレスタイプのマスク

スノーケル（ハイパードライトップ）

スノーケル（ハイパードライMAXトップ）

スノーケルのマスクへの取り付け方

TUSAスノーケルをお持ちのマスクに取り付ける場合は、次の手順で行ってください。

必ず顔の左側にスノーケルがくるようにセットしてください。

通常のアダプターの場合

（写真①）のようにスノーケルアダプターの下部を内側から押し上げながら、スリット部分を拡げて、マスクのストラップを送り込みます。この時。ストラップがねじれないようにご注意ください。

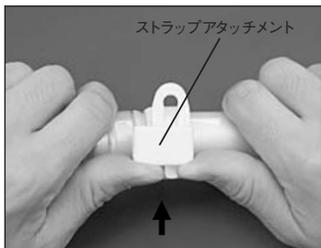
取り外すときは、逆の手順で行ってください。

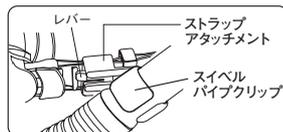
写真①

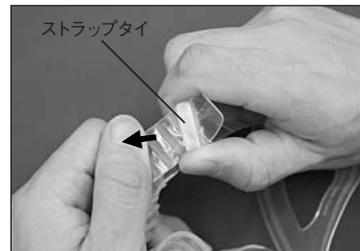
スイベルアダプターの場合

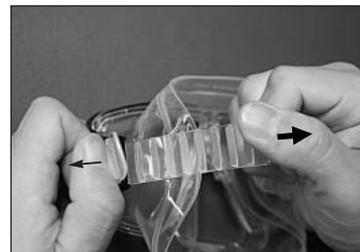
❶（写真②）のようにスノーケルを持ち、指でストラップアタッチメントを矢印の方向に強く押します。“カチッ”と音がして、（写真③）のように、ストラップアタッチメントがスライドします。

写真②

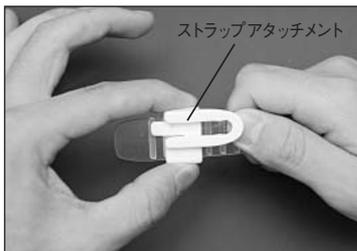
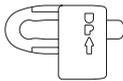
写真③

❷ストラップアタッチメントのレバーを押しながら、ひねるように引いて、スイベルパイプクリップから外します。（写真④）

写真④

❸マスクのストラップタイからストラップを引き抜きます。（写真⑤）

写真⑤

❹次に、（写真⑥）のようにマスクのストラップアジャスターのレバーを引きながら、ストラップを抜きます。

写真⑥

❺写真の向きに合せてストラップアタッチメントをストラップに通します。（※ストラップの凸部は向って外側になります。）（写真⑦）

NOTE
右のイラストの側が顔側になり、矢印(UP)の方向が上向きになるようにして下さい。
つまり(写真⑦)のような向きになります。

写真⑦

❻ストラップアジャスターのレバーを引きながら、マスクのストラップアジャスターにストラップを通します。（写真⑧）

写真⑧

❼ストラップをストラップアタッチメントに通し戻します。（※ストラップの凸部は上向きになります。）（写真⑨）

写真⑨

❽ストラップタイに、凸部が一山だけ超えるところまでストラップを通します。（写真⑩）

写真⑩

❾(写真⑪)のようにストラップアタッチメントのレバーを押しながら、スイベルパイプクリップの突起*1を、ストラップアタッチメントの溝にはめ込んだら完了です。(写真⑫)

写真⑪

写真⑫

＊1 スイベルパイプクリップに刻印された矢印の方向にはめ込んでください。

スイベルアダプター（PAT. P.）の機能

パイプの固定位置がスライドして、前側と後側の２ポジションが選べます。例えば、頭の大きさによって、アダプターと口の距離が近過ぎると、パイプが水面で真直ぐに立たない状態になりますが、従来品では、パイプを後にしたくてもストラップタイが邪魔になる場合がありました。

写真⑬

この新しいアダプターは後側（写真⑬）にスライドさせることによって、水面から出るパイプの先端を最適な位置（写真⑭）に保ちやすくしています。

写真⑭

ダイビング前のチェック

安全で快適なダイビングを行うために、毎ダイビング前には必ず以下のことをご確認ください。

■ストラップをしない状態でマスクをピッタリと顔に合わせ、軽く息を吸ってみてください。息を止めている間中、顔に貼り付いている状態であれば、フィッティングに問題はありません。

写真⑮

■スノーケルは、プラスチックパイプ部分に亀裂等の異常がないかどうか、また同様にマウスピースにも穴があいてないかどうか確認してください。パーツによっては交換修理が可能なものもあります。

■排水弁付スノーケルの場合は、排水弁がしっかりと取り付いているかどうか、ゴミや砂等の異物を挟んでないかどうかを確認してください。
もし、異物を挟んでいる場合は、真水で洗い流してからご使用ください。

マスクのくもり止め

■マスクのレンズ面（顔側）は使用しているうちに、海水成分や汗、脂分、化粧品の成分などで次第に汚れていきます。また、購入後の新品のマスクのレンズ面には、シリコーンから気化した少量のガスの影響によって油膜が付着してる場合があります。そのまま使用するとくもりが発生しやすいので、使用前に食器用クレンザーを使って、マスクのレンズ面を洗浄するようにしてください。

■中性洗剤を使用した場合は、付着した洗剤成分を完全に流水（真水）で洗い落としてください。強い洗剤をそのまま用いたり、洗剤成分が付着したままにしておくと、まれにフレーム（プラスチック）部分にクラック（細かいひび割れ）が発生する場合があります。

■また通常は、ダイビングをする前に市販のくもり止め液等をマスクのレンズ内側に塗ることによって、よりくもりの発生を抑えることができます。（市販されているくもり止め液の中には非常にプラスチック素材を痛めやすいものがあります。特に目に刺激があるようなくもり止め液にはご注意ください。）

■くもり止め液がない時には、唾をマスクのレンズ内側に塗ることによって、ある程度のくもり止め効果が得られます。

■ファンデーション等の化粧品、サンオイル、日焼け止めクリームを顔に塗ったままマスクを装着するとくもりの原因となりますので、ご注意ください。

マスクの装着

くもり止めを施したらマスクを装着します。水漏れの原因となりますので、髪や眉毛、髭等をできるだけスカート部分と顔の間にはさみ込まないように注意してください。

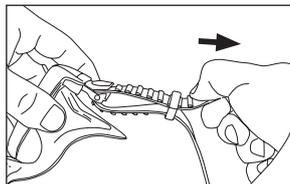
マスクの着け方

1 スカート部分にはさみ込まないよう、髪を片方の手でかきあげ整えます。
2 マスクを顔につけ、ストラップを後方に一旦引っ張り上げます。
3 ねじれないように注意して、ストラップを後頭部に掛け回します。
4 マスクの位置を変え、髪がスカート部分にはさまっていないかどうかをもう一度確認します。
5 必要に応じて、マスクのストラップの長さを調整してください。

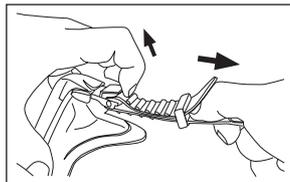
※調整の方法は、次の2種類のタイプがあります。

ストラップの長さ調整（5段階可変式、回転式アジャスタータイプ）

①ストラップを締めるとき

（イラスト①）のように、外側のストラップを矢印方向に引っ張ってください。

イラスト①

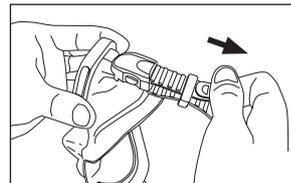
②ストラップを緩めるとき

（イラスト②）のように、指先でアジャストレバーを引き起こしながら、内側のストラップを矢印方向に引っ張ってください。

※イラストは説明のためマスクを手に持っていますが、顔に装着したままストラップの長さは調整することができます。

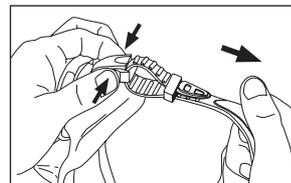
イラスト②

ストラップの長さ調整（スカート引きストラップタイプ）

①ストラップを締めるとき

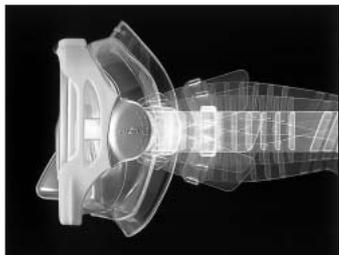
（イラスト③）のように、外側のストラップを矢印方向に引っ張ってください。

イラスト③

②ストラップを緩めるとき

（イラスト④）のように、アジャストボタンを押しながら、内側のストラップを矢印方向に引っ張ってください。

※イラストは説明のためマスクを手に持っていますが、顔に装着したままストラップの長さは調整することができます。

イラスト④

5段階可変式ストラップアジャスター

マスクの機種によっては、顔当たりを微妙に調節することができる5段階のストラップ角度調整アジャスター（PAT. P.）（写真⑯）が付いています。左右のストラップの角度を変えて固定する（写真⑰）ことによって、それぞれのテンションが簡単に微調整できます。それにより、左右はもちろん、今までのマスクではできなかった上下のフィッティング感も微妙に変えることができます。

写真⑯

写真⑰

エントリー時の注意

TUSAマスクは割れた時に破砕面が鋭角にならない強化（テンパード）ガラスを使用して安全を高めていますが、岩場等でマスクを付けたままむやみに水中に飛び込んだりすることは大変危険です。岩に衝突する等してレンズが割れると重大な事故につながる可能性がありますので、飛び込み（ボートダイビングを除く）はもちろん、スクーバダイビングとスキンダイビング、スノーケリング以外の目的には使用しないでください。

また、ボートダイビング時に、バックロール、ジャイアントスライド、フィートトゥギャザー等の方法でエントリーする場合には、衝撃で飛ばされないよう、必ずマスクを手で押さえて行ってください。

スクィーズ

水中では、10m潜降する毎に1気圧の割合で水圧が増して行きます。水中の圧力が、体内の空間の圧力よりも高い場合には、水圧がその空間を圧迫します。この時、体の各部に起こる痛みを伴った状態をスクィーズと呼びます。

■スクィーズには、(1)中耳、(2)鼻腔（サイナス）、(3)マスク等の種類がありますが、(1)と(2)は、下記の“耳抜き”によって、(3)はマスク内に鼻から空気を送り込むマスクブローによって解消することができます。

■(3)のマスクスクィーズは、ひどい時は顔や目の血管を痛めたり、マスクの装着跡がしばらく残ってしまう場合がありますので、痛みを感じたらすぐにマスクブローをするようにしてください。また、水中では圧力がかかりますので、ダイビング前に痛みを感じるほどマスクストラップを強く締めつけておく必要はありません。

圧平衡

スクーバダイバーは、必ず圧平衡をマスターしてください。マスク、スノーケル、フィンの3点セットでスキンダイビングをする際にも必要となります。

水中では深く潜れば潜るほど水圧が高まって行きますので、体内の空間の圧力との平衡を保たないと、激しい痛みをともなうスクィーズが生じます。特に、耳の鼓膜付近、鼻の奥に痛みを伴うスクィーズは、次ページの方法による“耳抜き”を行うことによってその都度必ず解消してください。

基本的な耳抜きの方法

■（写真⑱）のように鼻をつまみ、口を閉じた状態で、息を吐き出すつもりで耳の方へゆっくりと送り込むと、鼻から空気が抜ける感じがします。この状態を“耳抜き”と言います。“耳抜き”ができると、内圧と水圧の平衡が保たれ、痛みが解消されます。

写真⑱

■うまく“耳抜き”を行うには、水中と中耳内の圧力差ができるだけ小さいうちに行うことです。
“耳抜き”がスムースにできない時には、少し浮上して再度行ってください。
その際、片耳だけが抜ける場合には、抜けない方の耳が上になるように頭を傾けるとよいでしょう（写真⑲）
また、頭から先に潜って行くより、足から先に潜って行く方が一般的に“耳抜き”は行いやすくなります。

写真⑲

■フードを使用している時に耳抜きがうまくできない場合には、フードの内側に水を入れると、抜けやすくなります。

■次の補助動作を一緒に行うことによって“耳抜き”がより効果的にできます。

★唾を飲み込む。
★下顎を前後左右に動かしたり、舌の付け根を上げ下げする。

人によっては、上記の補助動作だけで“耳抜き”ができます。

万一、“耳抜き”ができないまま、痛みを無視して潜降した場合には、鼓膜が破れて、重大な事故につながる可能性があります。（無理に“耳抜き”を行うのも同様です。）

もし、どうしても“耳抜き”ができない場合には、必ず潜降することを中止してください。

リバースブロック

スクィーズとは逆に、水中の圧力が体内の圧力より低い場合に、中耳や鼻腔（サイナス）に痛みをともなう状態をリバースブロックといいます。リバースブロックはスクィーズと異なり、頻繁には起こりませんが、まれに（1）中耳（2）鼻腔（サイナス）（3）歯、等に起こることがあります。

■もし、浮上中に耳の中が痛むことがあれば、浮上をやめて痛みを感じなくなる深さまでゆっくり戻り、唾を飲み込んだり、下あごを前後左右に動かせば、リバースブロックは解消されるはずです。タンクの残圧が少ない等の理由で、そのまま浮上を続けなければならない時には、できる限りゆっくりと浮上することを心がけてください。浮上の途中で急にリバースブロックが解消されることもあります。

■鼻腔（サイナス）のリバースブロックは、潜降時に十分に圧平衡ができなかったため、うっ血して鼻腔内の空気が排出されづらくなった場合と、点鼻薬を使ったため、潜降時は鼻が通っていたのに、浮上時は薬効が切れて鼻づまりの状態になってしまった場合等に起こる可能性があります。鼻腔のリバースブロックが起こった場合は、そのままできるだけゆっくりと浮上するしか方法がありません。風邪をひいたり、鼻づまりをおこしている状態の時には、ダイビングを行わないでください。（P5参照）

■また、歯のリバースブロックが起こった場合も、そのままできるだけゆっくり浮上して、帰宅後に歯科医の治療を受けてください。

マスククリア

水面上ではマスクに水が入ってきても、マスクを顔から持ち上げるだけで、容易に排出することができます。しかし水中では、鼻からマスク内に空気を送り込むことによってマスク内に入った水を排出する“マスククリア”が必要です。

通常マスクの場合

■通常のマスクでは、マスク底部のスカートの下部から水が流れ出るように、鼻からマスク内に空気を連続して送り込んでいる間は（写真⑳）のように頭を後ろに傾けます。

■強く一気に空気を送り込むと、水がうまく排出されませんので、ゆっくり一定のリズムで息を送り込んでください。

写真⑳

ダイビングの際にマスク内に水が侵入する主な原因は、毛髪をマスクのスカートにはさみこんでしまうことによるものです。マスクを装着する際には、毛髪がスカートにはさまっていないかどうかを十分に確認してください。

スノーケルクリア

スキンダイビング時にスノーケルをくわえたまま水中に潜った時はもちろん、水面で使用している時に波をかぶったり、先端が水面下に沈んだ場合等には、スノーケルのパイプ内に入った水を排出しなければなりません。これをスノーケルクリアといい、一般的にはブラスト法を用います。

ブラスト（吹き出し）法

1 水面で、あるいは水中から水面に浮上した際に、短く息を“フッ”とスノーケル内に吹き出すことによって、スノーケル内に残った水を吹き飛ばしてしまう方法です。（図1）

2 スノーケルクリアをした後は、スノーケル内にまだ水が残っている可能性がありますので、ゆっくりと注意深く呼吸をして下さい。水が残っている場合には、もう一度ブラスト法を行ってください。

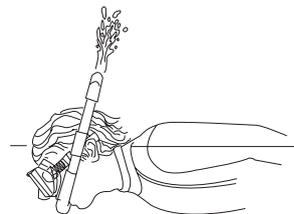



図1

ハイパードライMAXトップの場合

水中に潜った時にはハイパードライトップ部分のバルブ（開閉弁）が閉じて、パイプ内に水が浸入してこない構造となっています。（P.24参照）しかし、波を被った際や、潜った場合でも状況によっては、少量の水がパイプ内に入ってしまうことがありますので、呼吸には十分にご注意ください。パイプ内に水が多く残っている場合には、スノーケルクリアを行ってください。

ハイパードライ

ハイパードライスノーケルは、スノーケルパイプの傾きと、水の表面張力を利用して、被った波しぶきがパイプ本体に侵入しにくくした製品です。

■（図2）のように、被った波しぶきはエスケープパイプのを通して排水されますので、多少の水しぶきでは水を飲むことなく、スノーケリングを行うことができます。

但し機構上、スノーケルトップが完全に水没するような大きな波を被った時には、パイプ本体内に水が侵入しますので、十分ご注意ください。スノーケル内に入った水は、P22のブラスト法で排出してください。

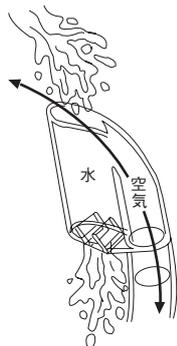
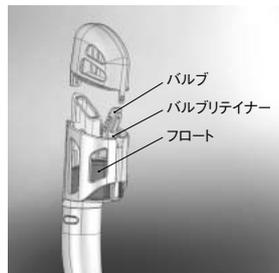



図2

ハイパードライMAX

■ハイパードライMAXは、水中に潜った際にドライトップ部分のフロートが浮き上がることによって、バルブ（開閉弁）が作動してパイプをふさぎ、内部に水が入りにくい構造になっています。フロートが2個ある独自の構造（PAT.P.）によって、水に潜る間際の頭が傾いた状態の時や波を被った時でも、なめらかにバルブが作動します。
それによって、「ハイパードライ」より更にパイプ内に水が侵入しにくくなっています。

バルブ
バルブリテイナー
フロート

使用前のチェック

※P.13の一般的な「ダイビング前のチェック」に加えて、以下の点も必ずご確認ください。

●使用前にフロートとバルブリテイナーがスムーズに動くことを確認してください。

●バルブ（開閉弁）周辺に砂や異物が付着していると、パイプ内に水が浸入する可能性があります。付着している場合は、よく洗い落としてからご使用ください。

使用上の注意

●スキンダイビングで水中に潜った際、深い所に行けば行くほど、周囲の水圧が高くなるため、パイプ内の圧力が低くなります。これによって、口元が吸い込まれるような感覚が起きて舌や歯茎に痛みを感じる場合がありますので、あまり深く潜らないでください。

●ハイパードライMAXトップのスノーケルは、水中に潜った時にはハイパードライトップ部分のバルブ（開閉弁）が閉じて、パイプ内に水が浸入してこない構造となっていますが、水面に浮上した際には、必ず息を吐いてから呼吸をしてください。もしもパイプ内に水が残っている場合に息を吸うと、気管に水が入る可能性があり危険です。

●呼吸をしている時にハイパードライトップ部分が水面下に沈むと、バルブ（開閉弁）が閉じて、呼吸ができなくなりますのでご注意ください。

●フロート部分は十分な耐圧性能がありますが、スクーバダイビングをする際には、安全のためにも必ず水深30m以内でご使用ください。

日常の点検と保管

ダイビング終了直後

　器財をできるかぎり長持ちさせるために、また、次回に安全で快適なダイビングを楽しむためにも、ダイビング終了後は、できるだけ早く真水にて水洗いを行ってください。

帰宅後

❶帰宅後は、風呂場などで、もう一度よく水洗いをしてください。浴槽がある場合は、スノーケルとマスクを一晩程度きれいな水の中に浸して、完全に塩抜きしてから、水洗いをしてください。

❷水洗い後は、乾いた布等で全体的に水分を拭き取り、直射日光を避けて、風通しの良いところで陰干しをしてください。

❸ 十分に乾燥させた後、変型防止のためにも、マスクは購入時に付属しているケースに入れて、なるべく暗所に（少なくとも直射日光を避けて）保管してください。

※保管する際には、重いものを直接上から載せたりする等、特にマスクのスカート、スノーケルのマウスピースに負荷がかからないようにご注意ください。変形が起こる可能性があり、水漏れの原因となる場合があります。

その他の注意事項

■直射日光や、炎天下の車内やトランク等の、極端に熱い場所に機材を放置しないでください。熱や紫外線の影響によって、破損したり、素材寿命が縮まったりすることがあります。

■シリコーンは素材の特質上、経年変化によって黄変色して行きます。従って、使用して行くうちにマスクのスカート、スノーケルのマウスピース部分が黄（茶）色に変色して透明度が失われることがあります。品質的には問題ありませんので、そのままご使用ください。

■また、他の色物（ウエットスーツ、ゴムフィン、水着等）と一緒に保管すると、色がシリコーン部分に移行することがありますので、マスクやスノーケルを保管したり、移動する際には、ケースに入れる等、色物から離すようにしてください。

■特にボートダイビング等の際には、マスクやスノーケルをデッキ上に放置して、足で踏んだりすることのないようご注意ください。スノーケルのアダプターや、マスクのフレーム、バックル類が破損する場合があります。

■マスクやスノーケルの各部に付着した汚れが気になる場合は、市販の中性洗剤をメーカー指定の希釈率（洗剤の裏面の説明に表示）にうすめて入れた水で洗い、その後洗剤成分を流水で完全に洗い落としてください。強い洗剤をそのまま用いたり、つけ置き洗いをしたり、洗剤成分が少しでも残っていると、洗剤の種類によってはプラスチック素材を侵してひびわれ等を起こさせるものがあります。

■フレームレスタイプのマスクは他のマスクにあるプラスチック製のフレーム部分がなく、レンズとスカート部分が一体成形されています。剥離すると水漏れが起こりますので、レンズの周囲を引っ張らないでください。